

8月レポート「刺激の連続」

1. はじめに

初めまして、平成 25 年度派遣奨学生曽根友也（そねともや）と申します。私が所属する日本の大学では 3 年生で、フィンドレー大学では学部の 1 年生として政治学を中心に学びます。まず、この度の留学は、アメリカという日本とは全く異なる場所で学び、多くの国籍の人々と交流し、そしてその中で努力し成長できる機会であり、こうした貴重な機会に恵まれたことに心から感謝します。そして毎月のレポートでは、アメリカでの生活を、「アメリカならではの」と感じられた点をなるべく織り交ぜながらお伝えしたいと考えています。

2. フィンドレー大学での生活

写真 1: メイン校舎

まず、大学での生活環境を紹介します。フィンドレーはアメリカ北東部に位置するオハイオ州の一つの市で、8 月下旬の現在、日中は少々暑く感じられますが過ごしやすい気候です。フィンドレー大学のキャンパスは、日本の一般的な大学のそれと比べて非常に広く、おしゃれな校舎、リスやウサギが駆け回る豊富な緑に囲まれて、日々のどかな雰囲気を感じています。私はキャンパス内の学生寮で一人暮らしをしています。一人暮らしと言っても、同じフロアにはアメリカ人、ブラジル人、日本人が生活しており、共用ロビーでの交流が可能です。食事はほとんどの場合別棟のダイニングホールでとり、まさに想像通りの「アメリカの食事」が提供されます。ハンバーガー、ピザ、マッシュポテト、ジュース……。しかし種類も豊富で、メニューは毎日変わり、野菜もしっかりとれるので非常に気に入っております。食事の外国人との会話も慣れるまでは大変ですが、貴重な時間を感じられます。最近では、日本語を専攻するアメリカ人と食事を共にする機会が多いですが、日本に興味があることもあって特に彼らは親切で、拙い英語を理解しようとしてくれ、また生活のあらゆる場面で手を貸してくれます。また、この大学にはアメリカ人だけではなく、特にアジア諸国からの多くの留学生がいます。今までの 2 週間余りで、韓国、中国、台湾、ベトナム、インド、ネパール、サウジアラビア、ブラジルなどからの留学生と出会いました。多くの国籍が入り混じる環境で生活できることは留学生活での大きな喜びです。



3. アメリカの大学で「学ぶ」ということ

続いて、アメリカの大学教育の特色が感じられた出来事をお伝えします。新学期が始まり、私たちは多くのガイダンスに出席しました。その中で数名の先生方のお話を聞くことになりましたが、なかでも教養学部の welcome session での女性教員のプレゼンテーションが印象的です。以下、理解できた範囲で概要を紹介します。

写真 2 : 米ドル札

彼女の結論は、大学で勉強するために支払う学費を無駄してはならないということです。彼女はまず、生徒の中から 1 ドル札を貸してくれる協力者を募ります。1 人が 1 ドル札を渡すと、彼女はいかにお金が貴重なものであるかを主張しながらも、同時にその札を粉々に破いていきます。今破っているのはたかが 1 ドル（約 100 円）でも、学費はもちろんもったもった高額で、授業に出席しない、講義を聞かない、予習や復習をしないといったことは、「破る」とは異なる、「学費を無駄にする方法」であることを伝えたかったのだと思います。そしてプレゼンの最後に彼女は、快く協力したその生徒に 2 ドルを渡しました。



これは単なる一例に過ぎませんが、いかにアメリカの大学が、少なくともフインドレー大学が教育に力を入れようとしているかが明白に表れていると思います。実際に、私が履修している授業は多くても 20 名程度の少人数で行われ、課題も多く、また学生の参加も積極的です。学費を無駄にしないように取り組むということはもちろん日本においても言われることだと思いますが、それを達成しようとする教員や学生の意識の高さに差を感じました。また同時に、大切なことを伝えるときの表現方法が非常に斬新で、個々人の主張を重んじるアメリカ人の表現能力の高さに感銘を受けました。

まだアメリカに来て 2 週間余りですが、このように日々多くの刺激を受けながら生活しています。

写真 3 :

友達と彼の祖父母と一緒に

